

高齢者を対象としたメタバース環境における解決志向アプローチ ：リフレクションが満足度と発話数に与える影響

A solution-focused approach in a metaverse for older adults: The influence of reflection on satisfaction and number of utterances

下條 志巖^{1*} 王 凱¹ 木内 敬太² 首藤 祐介³ 林 勇吾³
Shigen SHIMOJO¹ Kai WANG¹ Keita KIUCHI² Yusuke SHUDO³ Yugo HAYASHI³

¹ 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構

¹ Ritsumeikan Global Innovation Research Organization, Ritsumeikan University

² 独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

² National Institute of Occupational Safety and Health, Japan Organization of Occupational Health and Safety

³ 立命館大学 総合心理学部

³ College of Comprehensive Psychology, Ritsumeikan University

Abstract: Currently, social isolation of the elderly is a problem in Japan, and computerized psychotherapy is required, not only by counselors. However, it is necessary to increase the sense of immersion without the support of counselors. This study examined the usefulness of a listening agent and a dialogue technique, reflection, using a solution-focused approach in a metaverse environment. As a result, it was found that dialogue with a listening agent improves life satisfaction. Reflection was also found to facilitate speech. These results provide important insights into the implementation of response in computerized psychotherapy.

1 はじめに

現在、日本では高齢者の社会的孤立が深刻な問題となっており、メンタルヘルス支援の必要性が高まっている。内閣府の調査によれば、日常的に他者との交流のない高齢者が増加していることが明らかにされている [16]。この高齢者の社会的孤立を解消するためには、高齢者との交流やそれを通して悩みを傾聴するメンタルヘルス支援が求められているといえる。

メンタルヘルス支援においては、人的リソースの観点から、システム主体の心理療法が注目されている。メンタルヘルス支援を行うには、マンパワーに限界があり、高齢者のニーズに対して支援が提供できていないのが現状である [14]。また、高齢者の場合、気軽に外に出て、誰かに相談することが困難である。さらに、うつ病である高齢者は、メンタルヘルス支援を受けている割合が低く、求める人が少ないことが分かっている [4]。そのため、マンパワーや外出困難であることを考

慮に入れると、カウンセラーによる支援だけではなく、カウンセラーの支援を必要としないシステム主体の心理療法を行うことが求められているといえる。

1.1 メタバース環境における心理療法

カウンセラーの支援なくシステム主体の心理療法を行うには、没入感を高める必要があり、それにはメタバース環境が有用である。システム主体の心理療法では、カウンセラーとの対話がない場合、システムを受容しないことが明らかとなっている [13]。つまり、カウンセラーによる心理療法と同様に没入感を高め再現する必要がある。こうした背景から、メタバース環境における心理療法が検討されている。たとえば、Opris らでは、暴露療法による介入の有用性や従来の暴露療法と同等の効果があることが分かった [17]。つまり、メタバース環境が心理療法を行う現実の環境を十分に再現できていたと考えられる。また、紙田らでは主訴を語る必要のない構造化された手法（選択肢から選択するのみ）である構造化連想（Structured Association Technique; SAT）法を取り入れたシステム主体の心理療法を検討

*連絡先：立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構（所属機関名）

〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150
E-mail: sshimojo@fc.ritsumeik.ac.jp

している [12]. その際に、メタバース環境は、没入感を高めるために用いられた. そのため、カウンセラーの支援がないシステム主体の心理療法において没入感を高めるためにメタバース環境が用いられているといえる.

また、メタバース環境は、没入感を高める以外にも高齢者に対するシステム主体の心理療法を行う上で重要な利点がある. Usmani らでは、メタバース環境を活用した心理療法に関するレビューが行われており、その有用性として、ニーズや状況に応じて周囲の環境を柔軟に変化させられる点が挙げられている [22]. また、外出が困難な場合であっても自宅においてカウンセリングを受けることができる [19]. ただし、メタバース環境におけるシステム主体の心理療法において、十分に検討されておらず、こういった対話が有用であるのか明らかにされていない. そのため、メタバース環境におけるシステムが主体となった心理療法における対話手法の検討が必要である.

以上より、カウンセラーの支援なく、システムが主体となった心理療法を行うには、メタバース環境が有用であるといえる. ただし、心理療法を行う上では、こういった心理療法が有用なのか、こういった対話が必要であるのか検討する必要がある. 次節では、システム主体の心理療法とその問題点を概観し、本研究において着目する心理療法と対話技法を述べる.

1.2 システム主体の解決志向アプローチ

システム主体の心理療法では、認知行動療法で求められるような、高度な対話技術を伴わなくても、メンタルヘルスを改善する解決志向アプローチが求められている. 解決志向アプローチとは、クライアントの期待する未来像やクライアントの強みに焦点を当てた対話技法である. Jerome らによると、解決志向アプローチの特徴として、(a) 従来のアプローチからの転換、(b) 問題志向と解決志向、(c) 解決志向のタスク、(d) 他者視点、(e) 実践者が挙げられている [10]. (a) は、クライアントを中心に捉え、一般的なメンタルヘル스에重点を置くことである. (b) は問題よりも解決策に焦点を当て、未来の解決に焦点を当て小さな目標に取り組むことで前向きになることを促すことである. (c) は過去、現在、未来に関するタスクを行い、クライアントの過去の成功 (例外) を特定し、それを現在や未来の行動に活かすことを促す. (d) は他者の視点を考慮することで、異なる考え方を促すことである. (e) は、フレンドリーさや尊重といった個人的特性、積極的傾聴や (b)、(c)、(d) において用いられる解決志向の対話の使用といったコミュニケーション技術が求められることである. また、解決志向アプローチによる実践においてさま

ざまな有用性が明らかにされている. Ingersoll-Dayton らでは、解決志向アプローチによって、ポジティブな側面に注目し、異なる考え方を促し、問題行動を改善することが分かった [9]. さらに、Zak らでは、うつ病などを罹患している高齢者に対して、臨床的有効性を明らかにしている [24]. そのため、解決志向アプローチは、未来に焦点を当て、解決策を考え、過去の成功や他者の視点取得を行うことで異なる考え方を促し、行動や認知を改善するものである. また、解決志向アプローチに関わるタスクを行う際には、傾聴などのコミュニケーション技術が求められる.

システム主体の解決志向アプローチの有用性は明らかにされているが、持続的なメンタルヘルスやクライアントの自己開示の検討が必要である. 大津らでは、問題志向アプローチと解決志向アプローチをシステム化した [18]. その結果、解決志向アプローチは問題志向アプローチと同様にメンタルヘルスを改善することが分かった. ただし、クライアントによって対話性が低いことが指摘された. また、我々の研究 [20] では、メタバース環境における会話エージェントによる解決志向アプローチによって、ポジティブ情動は改善されたが、ネガティブ情動は改善されないことが分かった. また、ネガティブ情動は、エージェントに対する印象と関連することが分かった. つまり、ネガティブ情動を改善するには、心理療法において、用いられている対話技法によって、印象を向上させる必要があるといえる. さらに、問題志向アプローチとの比較によって、エージェントに対する定量的・定性的な印象が向上することが分かった [21]. ただし、先行研究では、メンタルヘルスにおける一時的なメンタルヘルスに着目し、持続的なメンタルヘルスが改善するのか検討されていない. また、解決志向アプローチにおいて、クライアントの発話を促すことは非常に重要である. そのため、メタバース環境における解決志向アプローチに基づく会話エージェントの有用性を検討する必要があるといえる.

以上より、システム主体の解決志向アプローチの有用性は明らかにされているが、持続的なメンタルヘルスやクライアントの発話には着目されていない. そのため、本研究では、リフレクションといった心理療法で行われている対話技法を取り入れた検討を行う. リフレクションとは、心理療法において共通している対話技法であり、クライアントが今ここで感じつつあることを、評価や偏見を加えずそっくりそのまま受け取って返していく応答のことである [7].

1.3 目的と仮説

本研究は、メタバース環境における解決志向アプローチに基づいた傾聴エージェントの持続的な使用の有用

性を検討することを目的とする。リサーチクエストンとしては、解決志向アプローチはメンタルヘルスを改善するのか (RQ1), カウンセリングにおける対話技法を用いることで発話を促し、メンタルヘルスを改善するのか (RQ2) 検討する。これらのリサーチクエストンを検討するために、次の仮説を立てた。RQ1 に関しては、解決志向アプローチによる傾聴エージェントとの対話によって、メンタルヘルスが改善され (H1-1), メンタルヘルスを改善する対話技法であるリフレクションを取り入れた会話エージェントの方が、リフレクションを取り入れていない会話エージェントよりも、メンタルヘルスが改善される (H1-2) と予想される。また、RQ2 に関しては、解決志向アプローチによる傾聴エージェントとの対話によって、発話が促され (H2-1), メンタルヘルスを改善する対話技法であるリフレクションを取り入れた会話エージェントの方が、リフレクションを取り入れていない会話エージェントよりも、発話を促す (H2-2) と予想される。

2 方法

2.1 実験参加者

本研究では、公益社団法人茨木市シルバー人材センターを介して、60代~70代である36名の高齢者(男性16名, 女性20名)が参加した。平均年齢は、69.93歳 ($SD = 3.71$)であった。SFA+Reflection条件は18名, SFA条件は18名であった。SFA+Reflection条件では、解決志向アプローチの一つである「ミラクルクエストン」を取り入れた会話を行い、実験参加者に自身の目標について考えてもらった。また、メンタルヘルスを改善する対話手法の一つであるリフレクションを行うために、実験参加者からの回答に対しての応答をリフレクションのプロンプトを用い、GPTを用いて生成した。SFA条件では、解決志向アプローチの一つである「ミラクルクエストン」を取り入れた会話を行い、実験参加者に自身の目標について考えてもらった。また、実験参加者からの回答に対しての応答は簡易的な応答のプロンプトを用い、GPTを用いて生成した。

2.2 実験手続き

本実験は、メタバース環境における会話エージェントによる解決志向アプローチの有効性を検討するために、本課題とアンケートから構成された。本課題の会話エージェントとの対話は計3回、1週間に1回行った。その最初と最後にアンケートを実施した。本課題におけるシナリオは、主に(I)イントロフェーズ、(II)選択とイメージフェーズ、(III)対話フェーズ、(IV)まとめ・フィー

ドバックフェーズに分けられた。(I)では、エージェントの自己紹介をした。(II)では、相談したい内容の選択とイメージを行った。(III)では、SFA+Reflection条件、SFA条件において異なり、シナリオに則ってエージェントから質問し、それにクライアントは回答した。(IV)では、本日話したことのまとめとフィードバックを提供した。

2.3 実験システムと対話シナリオ

解決志向アプローチに基づいた対話を体験できる傾聴支援システムを、Unityを用いて開発した。没入感を高めるために、カウンセリングを行う空間、会話エージェントのAvatarを用意した。解決志向アプローチにおける会話シナリオは、「奇跡の一日」を想像してもらうことで、自身がどのような変化を望んでいるのかという自身の理想像の理解を促し、理想の状態と現在の状態の共通点から今できることがどのようなことなのかを明確にすることに焦点を当てた支援方法である。また、実験参加者からの回答への応答は、ChatGPT用いた。文字数が12文字未満の場合は、さらに回答を得るためにフォローアップ質問を行った。12文字以上の場合は、条件ごとに異なるプロンプトを使用した。SFA条件では、「ユーザーが『userResponse』と回答しました。簡単に同意するか、ユーザーの回答に対して短い反応を示した後、次の台詞『currentLine』を読み上げてください。」というプロンプトを用い、応答を生成した。「userResponse」には、ユーザーの回答した文字列、「currentLine」には、次のそれぞれのアプローチに基づいた質問に関する文字列が格納されていた。SFA + Reflection条件では、「リフレクションのルールに基づいて、ユーザーの回答に対して反応を示した後、次の台詞『currentLine』を読み上げてください。」というプロンプトを用い応答を生成した。

2.4 従属変数

本研究では、メンタルヘルスとして人生に対する満足尺度 (the Satisfaction With Life Scale; SWLS), 自己開示として対話中の発話量を用いた。SWLS[11]は、ポジティブ、ネガティブな心理的側面、過去現在未来に対する評価である。SWLSは、1週目の対話前と3週目の対話後(プレ・ポスト)に尋ねた。この尺度は、「ほとんどの面でわたしの人生はわたしの理想に近い」、「わたしの人生はとても素晴らしい状態だ」、「わたしは自分の人生に満足している」、「わたしはこれまで自分の人生に求める大切なものを得てきた」、「もう一度人生をやり直せるとしてもほとんど何にも変えないだろう」の5項目からなる。「全く当てはまらない」から「非常

に当てはまる」までの7件法で回答を求め、合計点を従属変数とした。また、対話中の発話は、1週目と3週目のエージェントとの発話ログから取得したものである。実験参加者の平均発話数を従属変数として用いた。

3 結果

3.1 メンタルヘルス

本節では、解決志向アプローチによる傾聴エージェントとの対話によって、メンタルヘルスが改善され(H1-1)、リフレクションによって、メンタルヘルスが改善されるのか(H1-2)を検証する。図1は、各条件におけるプレ・ポストでのSWLSの合計得点である。まず、2要因(SFA + Reflection条件 vs. SFA条件 × プレ vs. ポスト)混合分散分析を行った結果、条件の主効果はなく($F(1, 34) = 0.85, p = .363, \eta_p^2 = .02$)、プレ・ポストに主効果があることが分かった($F(1, 34) = 6.02, p = .019, \eta_p^2 = .15$)。以上より、プレからポストにかけて、2つの条件で改善されていたことから、H1-1は支持されたが、H1-2は支持されなかったといえる。

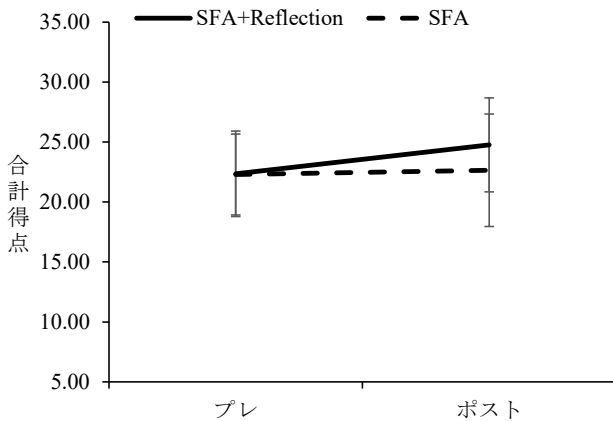


図1: 各条件におけるプレ・ポストのSWLSの合計得点。

3.2 発話数

本節では、解決志向アプローチによる傾聴エージェントとの対話によって、発話が促され(H2-1)、リフレクションを取り入れた会話エージェントの方が、リフレクションを取り入れていない会話エージェントよりも、発話を促すのか(H2-2)を検証する。図2は、各条件における1週目と3週目の対話における発話数である。まず、2要因(SFA + Reflection条件 vs. SFA条件 × プレ vs. ポスト)混合分散分析を行った結果、交互作用があることが分かった($F(1, 34) = 4.74, p = .037, \eta_p^2 = .12$)。次に、条件の単純主効果検定を行った

ところ、1週目($F(1, 34) = 0.66, p = .422, \eta_p^2 = .02$)と3週目($F(1, 34) = 0.63, p = .432, \eta_p^2 = .02$)に差がないことが分かった。さらに、1週目・3週目の単純主効果検定を行ったところ、SFA条件では差がなかったが($F(1, 34) = 1.88, p = .188, \eta_p^2 = .10$)、SFA + Reflectionにおいて、1週間から3週目にかけて発話が増加していることが分かった($F(1, 34) = 6.02, p < .001, \eta_p^2 = .58$)。以上より、H2-1は支持されなかったが、H2-2はおおむね支持されたといえる。

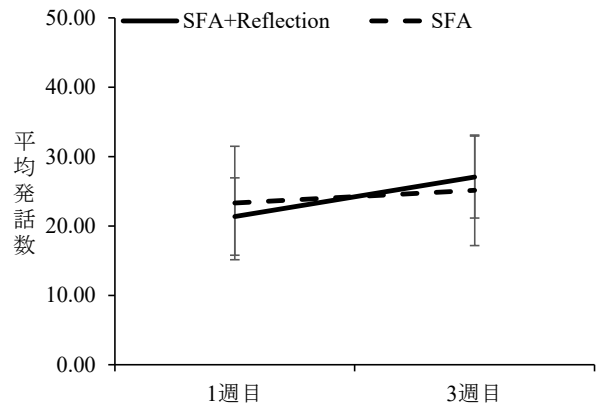


図2: 各条件における1週目と3週目の発話数。

4 考察

本研究は、メタバース環境における解決志向アプローチに基づいた傾聴エージェントの持続的な使用の有用性を検討した。具体的には、解決志向アプローチに基づく対話は、発話を促し、メンタルヘルスを改善するのか(RQ1)、カウンセリングにおける対話技法を用いることで発話を促し、メンタルヘルスを改善するのか(RQ2)を検討した。リサーチクエストを検討するために、次の仮説を立てた。RQ1に関しては、解決志向アプローチによる傾聴エージェントとの対話によって、メンタルヘルスが改善され(H1-1)、メンタルヘルスを改善する対話技法であるリフレクションを取り入れた会話エージェントの方が、リフレクションを取り入れていない会話エージェントよりも、メンタルヘルスを改善される(H1-2)と予想される。また、RQ2に関しては、解決志向アプローチによる傾聴エージェントとの対話によって、発話が促され(H2-1)、メンタルヘルスを改善する対話技法であるリフレクションを取り入れた会話エージェントの方が、リフレクションを取り入れていない会話エージェントよりも、発話を促す(H2-2)であった。

SWLSに関する結果より、解決志向アプローチに基づく傾聴エージェントとの対話によって、メンタルヘルスが改善されることが分かった。ただし、リフレクシ

ンの有無によっては違いがなかった。そのため、H1-1は支持されたが、H1-2は支持されなかった。

また、発話数に関する結果より、SFA + Reflection条件においてのみプレからポストにかけて発話量が増えることが分かった。そのため、H2-1は支持されなかったが、H2-2はおおむね支持されたといえる。

4.1 メタバース環境における解決志向アプローチの有用性

本節では、解決志向アプローチに基づく対話は、発話を促し、メンタルヘルスを改善するのか (RQ1) について議論する。解決志向アプローチに基づく傾聴エージェントとの対話によって、メンタルヘルスが改善された。先行研究 [18], [20], [21] では、解決志向アプローチの有用性を明らかにしている。本研究では、人生の満足度を尺度とし、長期的なメンタルヘルスの改善があることを明らかにした。システム主体の解決志向アプローチにおいても、カウンセラーによる解決志向アプローチと同様に、長期的なメンタルヘルスを改善することが分かった。

また、発話量は、メタバース環境における解決志向アプローチだけでは向上しなく、リフレクションが必要であることが分かった。つまり、カウンセラーによる解決志向アプローチと同様に、システム主体の解決志向アプローチにおいてもコミュニケーション技術が求められるといえる。たとえば、Jeromeらによると、カウンセラーにおいては、フレンドリーさや尊重といった個人的特性、積極的傾聴や解決志向の言語の使用といったコミュニケーション技術の必要性が指摘されている [10]。以上より、メタバース環境における解決志向アプローチが長期的なメンタルヘルスの改善をしていたと示唆される。ただし、発話を促すことはできなかった。

4.2 解決志向アプローチにおける対話技法の有用性

本節では、カウンセリングにおける対話技法を用いることで発話を促し、メンタルヘルスを改善するのか (RQ2) について議論する。リフレクションの有無によっては違いがなかった。これは、長期ではあるが、3週間のみ継続であったため、人生の満足度にリフレクションの影響は少なかったと考えられる。今後は、よりリフレクションのタイミングが重要となる。

また、SFA + Reflection条件においてのみプレからポストにかけて発話量が増えた。この結果は、リフレクションによって、受容されており、発話数が増えたといえる。クライアントから発話数を引き出すことで、

健康のモニタリングや自己開示を引き出すことができ、メンタルヘルスにおいて有用である。実際に、クライアントからの発話は、クライアントの変化を捉えるために必要であると指摘されている [8]。メンタルヘルスに今回は3週間では影響はなかった理由としては、得られた発話に対する支援が行えていないことが考えられる。以上より、メタバース環境における解決志向アプローチにおける応答の実装に関する重要な知見を提供したといえる。

4.3 限界と展望

本研究の限界としては、メタバース環境における解決志向アプローチにおいて、どのタイミングでリフレクションを行うのか検討は行われていない点である。解決志向アプローチにおけるカウンセラーの有用なコミュニケーション技術を検討する必要がある。また、解決志向アプローチにおいて有用な発話が得られていたのかは明らかになっていない。そのため、今後の展望としては、他の対話技法を搭載した傾聴エージェントやどのタイミングにおいてリフレクションを行うことが有用であるのか検討する必要がある。さらに、解決志向アプローチにおける有用な発話を得られていたのかより詳細な会話の分析が必要である。

謝辞

本研究は、立命館グローバル・イノベーション研究機構 (R-GIRO) による研究助成を受けた。

参考文献

- [1] Andersson, G.: The Internet and CBT: A Clinical Guide, *CRC Press* (2014).
- [2] Andersson, G.: Internet-Delivered Psychological Treatments, *Annual Review of Clinical Psychology*, Vol. 12, pp. 157–179 (2016).
- [3] Barazzone, N., Cavanagh, K., & Richards, D. A.: Computerized cognitive behavioural therapy and the therapeutic alliance: A qualitative enquiry, *British Journal of Clinical Psychology*, Vol. 51, pp. 396–417 (2012).
- [4] Conner, K. O., Copeland, V. C., Grote, N. K., Koeske, G., Rosen, D., Reynolds, C. F., & Brown, C.: Mental Health Treatment Seeking Among Older Adults with Depression: The Impact of Stigma and Race, *The American Journal*

- of *Geriatric Psychiatry*, Vol. 18, No. 6, pp. 531–543 (2011).
- [5] Dahl, R., Bathel, D., & Carreon, C.: The use of solution-focused therapy with an elderly population, *Journal of Systemic Therapies*, Vol. 19, No. 4, pp. 45–55 (2000).
- [6] Fitzpatrick, K. K., Darcy, A., & Vierhile, M.: Delivering Cognitive Behavior Therapy to Young Adults with Symptoms of Depression and Anxiety Using a Fully Automated Conversational Agent (Woebot): A Randomized Controlled Trial, *JMIR Ment Health*, Vol. 4, No. 2, e19 (2017).
- [7] Gendlin, E. T.: Focusing-oriented psychotherapy: A manual of the experiential method, The Guilford Press, New York (1996).
- [8] Heerink, M., Krose, B., Evers, V., & Wielinga, B.: Studying the acceptance of a robotic agent by elderly users, *International Journal of Assistive Robotics and Mechatronics*, Vol. 7, No. 3, pp. 33–43 (2006).
- [9] Ingersoll-Dayton, B., Schroepfer, T., & Pryce, J.: The Effectiveness of a Solution-Focused Approach for Problem Behaviors Among Nursing Home Residents, *Journal of Gerontological Social Work*, Vol. 32, No. 3, pp. 49–64 (1999).
- [10] Jerome, L., McNamee, P., Abdel-Halim, N., Elliot, K., & Woods, J.: Solution-focused approaches in adult mental health research: A conceptual literature review and narrative synthesis, *Frontiers in Psychiatry*, Vol. 14, Article 1068006 (2023).
- [11] 角野善司: 人格 3015 人生に対する満足尺度 (the Satisfaction With Life Scale [SWLS]) 日本版作成の試み, 第 36 回日本教育心理学会総会発表論文集, pp. 192 (1994).
- [12] 紙田剛, 松本敦子, 宗像恒次, 井上智雄: カウンセリング技法 sat 法のデジタルコンテンツ化によるセルフメンタルヘルスケア, 情報処理学会論文誌, Vol. 6, No. 2, pp. 32–41 (2018).
- [13] Koulouri, T., Macredie, R. D., & Olakitan, D.: Chatbots to support young adults' mental health: An exploratory study of acceptability, *ACM Transactions on Interactive Intelligent Systems*, Vol. 12, No. 2, pp. 1–39 (2022). doi:10.1145/3485874
- [14] 國井泰人: コロナ禍におけるメンタルヘルスの実態と科学的根拠に基づく対策の必要性, 学術の動向, Vol. 26, No. 11, pp. 40–46 (2021).
- [15] McWilliams, N.: Psychoanalytic diagnosis: Understanding personality structure in the clinical process, *Guilford Press* (2011).
- [16] 内閣府: 令和 5 年版高齢社会白書, 内閣府 (2023).
- [17] Opris, D., Pinteau, S., Garcia-Palacios, A., Botella, C., Szamoskozi, S., & David, D.: Virtual reality exposure therapy in anxiety disorders: A quantitative meta-analysis, *Depression and Anxiety*, Vol. 29, No. 1, pp. 85–93 (2012).
- [18] 大津耕陽, 木内敬太, 林勇吾: 高齢者を対象としたチャットボットによる対話型の心理的支援: 解決志向アプローチを用いた実験的検討, 情報処理学会論文誌, Vol. 65, No. 1, pp. 151–166 (2024).
- [19] Park, M. J., Kim, D. J., Lee, U., Na, E. J., & Jeon, H. J.: A literature overview of virtual reality (VR) in treatment of psychiatric disorders: Recent advances and limitations, *Frontiers in Psychiatry*, Vol. 10, Article 505 (2019).
- [20] 下條志蔵, 王凱, 木内敬太, 林勇吾, 解決志向アプローチを用いた VR 版傾聴エージェント: 高齢者のメンタルヘルスと印象評価に関する検討, 日本認知科学会第 41 回大会発表論文集, pp. 666–669, 東京 (2024).
- [21] 下條志蔵, 王凱, 木内敬太, 林勇吾, メタバース環境における高齢者に対する傾聴カウンセリング: 解決志向アプローチによるシステムへの印象評価に関する検討, 電子情報通信学会技術研究報告, 大阪 (2025).
- [22] Usmani, S. S., Sharath, M., & Mehendale, M.: Future of mental health in the metaverse, *General Psychiatry*, Vol. 35, No. 4 (2022).
- [23] Westbrook, D., Kennerley, H., & Kirk, J.: An introduction to cognitive behaviour therapy: skills and applications (2nd ed.), *SAGE Publications* (2011).
- [24] Žak, A. M., Pakrošnis, R., & Kuminskaya, E.: Research on the Solution-Focused Approach in 2022: A Scoping Review, *Journal of Solution Focused Practices*, Vol. 7, No. 1 (2023).